



コース 10 津島四大まつり舞台めぐり



祭好きの人
健脚な人



歴史ある神事三祭「冬の『御開扉（おみと）』、夏の『尾張津島天王祭』、秋の『尾張津島秋まつり』と1980年代から行われている尾張津島藤まつりの、四季を楽しむ「津島の四大まつり」の舞台をめぐります。四季折々の魅力あふれるまち津島をぜひお楽しみください！

※それぞれのまつりの開催日を記しましたが、その年の暦やそれぞれのまつりの事情により日程・時間が変わる場合がありますので、マップを参考にまつりをご覧になる場合は事前にご確認の上お越しください。

- スタート ↓780m
- ①堤下神社（井戸） ↓320m
- ②池須交差点 ↓200m
- ③津島神社楼門 ↓50m
- ④津島神社拜殿 ↓260m
- ⑤居森社 ↓280m
- ⑥御旅所（天王橋跡） ↓560m
- ⑦藤棚 ↓300m
- ⑧車河戸 ↓300m
- ⑨瑞泉寺の稚児門 ↓10m
- ⑩六角地蔵 ↓170m
- ⑪道路元標 ↓185m
- ⑫坂口町の井戸 ↓55m
- ⑬道標（津島神社参宮道） ↓160m
- ⑭上切の井戸 ↓
- 観光交流センター
- ゴール
- 全長約 3630 m

① 堤下神社（井戸）

かつて津島のまちと津島神社（津島天王社）との間には天王川が流れており、堤下神社は川の向こうの天王社の遥拝所でした。境内には井戸があります。

② 池須交差点（天王通1丁目交差点）

かつては天王川の川底でした。池須交差点と呼ばれるこの場所では、尾張津島秋まつりの本祭の夜、提灯を灯した七切・向島・今市場の山車が北に並んで一斉に車切を披露します。

【日時】尾張津島秋まつりの夜（10月第1日曜日）

③ 津島神社楼門

「開扉祭（おみと）」の舞台になっています。津島神社の楼門を、燃える大松明がくぐる姿は勇壮、圧巻です。

【日時】旧暦2月1日相当日の夜

④ 津島神社拜殿

尾張津島天王祭の宵祭の前夜に行われる神事「児打廻し」の舞台です。祭を担う各町内から、車河戸を經由した児行列が津島神社に参拝します。拜殿前に建てられた柱を打ち鳴らしながらその周りを3回廻ります。

【日時】宵祭前夜（7月第4土曜日の前夜）

⑤ 居森社

尾張津島秋まつりの山車のうち、居森社を産土神とする向島の山車（馬場町、中之町、上町（上之町・江川町）の3地区）が集まります。からくりや車切を披露します。

【日時】尾張津島秋まつりの初日

⑥ 御旅所（天王橋跡）

神様がお祭をご覧になる場所。旧天王橋。かつて織田信長は、ここを流れていた天王川に架かる天王橋の上から祭りを観覧したと伝えられています。

【日時】神輿渡御祭（7月第4土曜日の朝）宵祭（7月第4土曜日の夜）朝祭、神輿還御祭（宵祭の翌朝）

⑦ 藤棚

天王川公園の南側にある藤棚は、12種類114本の多彩な藤が5,034㎡に広がります。藤の開花する春には藤まつりが開催され、様々なイベントが行われます。

【日時】藤まつり（4月下旬～5月上旬ごろ）

⑧ 車河戸

天王川公園の東側にある車河戸という入り江は、尾張津島天王祭の船支度・宵祭の巻藁舟の提灯点灯や乗り込みの舞台です。普段は天王祭の舟に組まれる屋形と船が置かれています。

⑨ 瑞泉寺の稚児門

瑞泉寺にある門で、「稚児門」の扁額がかかっています。江戸時代中期まで寺の南隣まで車河戸が広がっていて、この門の辺りから小舟に乗り祭礼の本船に向かったことから名付けられたと伝えられているそうです。

⑩ 六角地蔵

六角形の燈籠型の地蔵堂で、六地蔵とも呼ばれています。昔ある家に盗賊が入った時、六人の僧侶に姿を変えて、盗賊を追い払ったとされ、まちの守り手として信仰を集めています。

⑪ 道路元標

津島の道路の起点・終点や主な通過点を表示する標識です。ここが津島の地図を作る際の中心点です。ぜひ見つけてください。

作成：小路めぐりマップ策定部
めぐみ、K やまもとけんじ
つづいやすし 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三
岩崎勝明 橋本達夫

⑫ 坂口町の井戸

坂口町と呼ばれた地域（現在の本町3丁目辺り）にある共同井戸でした。坂口町は尾張津島天王祭を担う津島五ヶ村の一つ「筏場」の一部でした。

⑬ 道標（津島神社参宮道）

尾張津島天王祭は本町筋（津島街道）沿いのまち旧津島五ヶ村によって行われてきた祭です。津島神社参宮道を示す石碑で、津島上街道・下街道の合流点です。

⑭ 上切の井戸

上切と呼ばれた地域（現在の本町1丁目辺り）にある共同井戸でした。天王祭の舟や屋台を連結するわら縄を編む際、この井戸の水が打ち水に使用されていました。